

2018（平成30）年度 学校マネジメントシート

三重県立上野高等学校（全日制）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		1 生徒が学びがいを実感する学校 2 保護者・地域が頼りがいを実感する学校 3 教職員が働きがいを実感する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	1 挨拶を大切にする生徒 2 気づきを大切にする生徒 3 命を大切にする生徒
	ありたい 教職員像	1 自由闊達な職場風土の中で協働と研修を通して職能成長を図る教職員 2 生徒の成長に使命と情熱を感じる真の教育専門職を目指す教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		○生徒：学力の向上と進路希望の実現、勉学と部活動の両立 ○保護者：国公立大学への進学を中心とする進路希望の実現、充実した学校生活 ○卒業生・地域住民：地域の伝統的な進学校・中心校としての役割、文武両道にわたる活躍と実績 ○大学：学力と意欲の高い生徒の育成	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		○PTA：進路希望実現、健全育成、学校情報の発信・提供 ○地域住民：情報発信と地域貢献 ○小中学校：地域の子どもたちを共に育てるとの観点に立った連携・交流 ○地域の関係機関：地域人材の輩出	○PTA：教育活動・教育環境充実のための理解・協力 ○地域住民：教育活動への理解・協力 ○小中学校：指導上必要な情報提供等 ○地域の関係機関：キャリア教育充実のための協働態勢
(3) 前年度の学校関係者評価等		○2学年の生徒、保護者対象に実施している重要度・満足度調査の結果を基に、満足度が低い項目については高める努力が必要である。 ○「上高みらい学」等を通じ、地域のことを考え、将来予測できない課題を自らが判断し解決に向けた取組は評価できる。 ○上野高校が抱える課題は、地元中学校が抱える課題でもあるので、小中高の連携を更に図る必要がある。	
(4) 現状と課題	教育活動	○伊賀地域の中学生の減少に加え、名張市から津市や他府県の高校への進学者が増加傾向にあることから、多様な生徒が本校に入学するようになってきている。習熟度別少人数指導や土曜講座等を実施するとともに、ホームルーム担任による個別面談の充実を図るなどして、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る必要がある。 ○生徒・保護者の80%以上が国公立大学への進学を希望しているが、合格者は生徒の約30%である。どのような学習指導・進路指導が効果的かを研究し、その成果を学校全体で共有するとともに、進学指導体制の充実と進学実績の向上を図る必要がある。 ○人権尊重の態度を身に付けた心豊かな人間形成を目指し、ホームルーム活動を中心に人権教育を実施しているが、昨年度、障がい者を蔑む用語の不適切な使用が発覚した。人権意識を高め、いじめや差別を見抜き、なくそうとする意欲と実践力を身に付けた生徒を育成する必要がある。 ○本校には文武両道の伝統があり、生徒・保護者も学習活動とともに部活動の充実を期待している。「進学校」としての役割を果たしつつ、運動や芸術文化活動に関する特別活動・部活動の充実に向け、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を推進する必要がある。	

学校運営等	<p>○本校の教育活動の現状や成果が保護者、中学校関係者、地域等に未だ十分に伝わっていない。ホームページを充実させ、学校説明会や授業公開の在り方を工夫するとともに、学校行事を公開するなどして「開かれた学校づくり」を一層進める必要がある。</p> <p>○勤務時間外に個別指導、分掌業務、教材研究、部活動指導業務等に従事して恒常的に過重労働に陥っている職員や、放課後の会議等で多忙感を持つ職員が多い。平成 28 年度から新たに導入した 2 学期制・65 分 5 限授業の状況も見守りながら、職員間の連携・協働、効率的な学校運営等を一層促進し、過重労働緩和・総勤務時間縮減に向けた取組を積極的に進める必要がある。</p>
-------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>1 目指す学校像「生徒が学びがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「全教職員による共通理解の下、生徒の『自己指導能力』（その時、その場で、何をすべきで、何をすべきでないかを自ら考え、判断し、行動する能力）を向上させる共通実践を継続することにより、生徒一人ひとりが自律的な学習習慣と生活態度を確立して進路希望を実現し、さまざまな教育活動に主体的・協働的な態度で取り組み、他者と共生する力を身に付けている。」という状態を重点目標とする。</p>
学校運営等	<p>2 目指す学校像「保護者・地域が頼りがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「卓越した魅力ある教育活動の推進、学校情報の積極的な提供・発信、学校関係者評価委員会・人権教育推進協議会の活性化、適切迅速な対応等により、保護者・地域の満足と信頼を安定的に確保しており、その結果、本校への入学を希望する中学生とその保護者が増加する傾向にある。」という状態を重点目標とする。</p> <p>3 目指す学校像「教職員が働きがいを実感する学校」を実現するための重点目標 「活気のある明るい組織風土の中で教育活動・学校運営を継続的に改善するための仕組みや教職員間・校内組織間のチームワークが適切に機能するとともに、過重労働緩和・総勤務時間縮減に関する取組が適切に講じられており、大多数の教職員が本校で勤務することに満足している。」という状態を重点目標とする。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン1：全校体制で授業研究に取り組み、学習指導に関する指導力の向上を図ります。			
学習指導	活動指標	○教科横断的グループによる研究授業・授業評価の実施 ○生徒による授業評価年2回実施	
	成果指標	○生徒の授業満足度（「とても満足」と「満足」の計、以下同じ）85%以上	
改善課題			

項目	取組内容・指標	結果	備考
◆アクションプラン2：生徒が自己の進路希望を実現できるようキャリア教育の充実を図ります。			
キャリア教育(進路指導)	活動指標	○総合的な学習の時間を核に据えた「進学型キャリア教育」の計画的・系統的実施 ○「進学型インターンシップ」の実施	◎

	成果 指標	○総合的な学習の時間の授業満足度 80%以上 ○国公立大学合格者数、第三学年生徒の 25%以上		
改善課題				

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン3：卓越した理数科教育を推進します。				
理数科	活動 指標	○アクティブ・ラーニング型授業を専門科目の 70%以上で実施 ○高大連携先の新規開拓 ○「総合的な学習の時間」、「課題研究」の授業運営方法の確立と体系的な指導体制の構築		
	成果 指標	○生徒の各活動満足度 90%以上		
改善課題				

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン4：人権教育を積極的に推進します。				
人権教育	活動 指標	○人権学習LHRを各学年年1回以上公開 ○教職員の全体研修、小グループ研修をそれぞれ年2回以上実施 ○全教職員がフィールドワークに年1回以上参加 ○生徒が主体的に取り組む小学生との交流会を年2回以上実施		
	成果 指標	○人権問題の解決に向け主体的に考え、実践できる生徒の増加		
改善課題				

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン5：生徒理解を深め、生徒の自己指導能力を高める指導を推進します。				
生徒指導	活動 指標	○登校指導、着こなし指導等共通実践を年5回以上実施 ○保健講話またはメンタルヘルス講演会を各学年1回実施 ○支援を必要とする生徒に関する事例検討会を適宜実施		
	成果 指標	○問題行動による特別指導件数年3件未満		

改善課題

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン6：学校情報を積極的に提供・発信し、広報活動を強化します。				
情報発信	活動指標	○ホームページ掲載件数(更新履歴件数)年60件以上 ○中学生向けリーフレットの更新・配布 ○生徒主体の学校説明会(体験授業を含む)年2回開催		◎
	成果指標	○平成31年度後期選抜普通科・理数科合計入学志願倍率1.1倍以上		
改善課題				

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン7：地域の発展に貢献します。				
地域貢献	活動指標	○明治校舎HAQUAホールでのイベント年3回以上開催 ○教科・部活動等による地域貢献活動計年15回以上実施		
	成果指標	○マスコミ報道年3回以上		
改善課題				

項目	取組内容・指標		結果	備考
◆アクションプラン8：学校運営を継続的に改善する仕組みを整備するとともに、水曜日早帰り推奨デーの設定、週1回の部活動休養日の設定、学校組織として動き会議時間の最適化等を通じ、過重労働緩和・総勤務時間縮減を学校全体で進めます。				
職員満足度の向上	活動指標	○学校の魅力化・活性化の具体方を提言 ○校内組織内・間の情報共有及び報告・連絡・相談・確認の徹底 ○月に1日定時退校日、週に1日の部活動休養日、放課後に開催され60分以内に終了する会議の割合60%以上		
	成果指標	○教職員満足度調査の学校満足度に関する項目で「概ね満足」以上と回答した教職員75%以上		

		○2016 年より月あたり時間外労働時間 15%（4 時間）削減、年あたり休暇取得日数 1 日増加、月 80 時間を超える時間外労働教職員をのべ 3 人削減	
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかにした改善課題と次への取組方向	
--------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
学校運営についての改善策	